



ボランティアだより

No. 203

発行部数 2,000部

発行日 令和2年1月

(編集・発行) 社会福祉法人広島市安芸区社会福祉協議会 ボランティアセンター
広島市安芸区船越南三丁目2-16 安芸区総合福祉センター3階
(TEL) 821-2503 (FAX) 821-2504
(Eメール) aki@shakyohiroshima-city.or.jp

～あけましておめでとございませう。 本年もどうぞよろしくお願ひいたします。～

第2回安芸区ボランティア研修会

開催日時：令和2年1月28日(火) 13:00～15:30

会場：安芸区総合福祉センター 3階大会議室

内容：スマホの基本操作、LINEの使用方法、
ちよこつと軽減税率のお話等

講師：ドコモショップ宇品ベイエリア店社員の皆様

対象：安芸区ボランティアセンターにボランティア登録を
されている個人、団体。

安芸地区在住でボランティア活動に興味関心のある方

定員：80名

参加費：無料

持参物：携帯・筆記用具

申し込み：各グループでとりまとめ、安芸区社協へFAXか持参で。
個人の参加の方は、直接申し込み。

締切り：令和2年1月17日(金)



苦手だけど、
便利に使えるって
いいね(*^-^*)

安心して活動を行うために、是非ともご加入ください

ボランティア活動保険

令和2年度の加入手続きをお願いします。

時間が経つのは早いもので、保険の更新時期になりました。
平成31年度にご加入いただいたボランティア活動保険は、
3月末日で補償期間が切れます。

令和2年2月頃新しい申込用紙が届くので、手続きをお願いします。

※ボランティア活動保険は、活動中の事故はもちろんのこと、往復路での事故も保険の対象となります。

補償内容については加入と同時にお渡しするパンフレットに記載してありますのでご参照ください。



○ボランティア活動保険料

<基本タイプ>

Aプラン 350円

Bプラン 510円

補償期間：R2.4.1～R3.3.31

精神保健福祉ボランティア養成講座 受講生募集

地域には、こころに障がいを抱え、しんどい思いで生活をされている方がおられます。

こころの病や障がいを抱えている方を理解し、どのように対応したらよいかを学び、寄り添っていきませんか。

また、実際にソーシャルクラブゆめ広場(精神障がいの方の居場所)で寄り添う支援をしてみませんか。

	日時	内容	講師
1	令和2年2月27日(木) 14:00~16:00	こころの健康障がい(統合失調症・うつ病・大人の発達障害)の理解	精神科医師 <small>まつおか たつお</small> 松岡 龍雄 (広島第一病院)
2	令和2年3月5日(木) 10:00~12:00	・精神障がい者の方と接する際のポイント ・当事者からのメッセージ	精神保健福祉士 <small>かきなが ともこ</small> 垣中 友子 (モルゲンロート)
3	令和2年3月12日(木) 10:00~12:00	・ゆめ広場について ・ボランティアの体験談	・安芸区社会福祉協議会職員 ・ボランティアグループ「ドリーム」

場所:安芸区総合福祉センター 3階 大会議室

対象:精神保健福祉に関心のある方 先着50名

共催:安芸区保健福祉課、安芸区社会福祉協議会

申し込み先:安芸区保健福祉課へ電話およびFAXで 電話082-821-2820 fax082-821-2832



ゆめ広場は、メンバーさんが考えた内容、料理・カードゲーム等と一緒に楽しんで下さるボランティアさんと一緒に活動できればと思っています。

車いす修繕ボランティア募集

はじめに、平成26年から5年間、車いす修繕ボランティアとして活躍いただいた、畑野 勇二(はたの ゆうじ)さんが突然の病でお亡くなりになりました。

畑野さんは、お仕事で車いすの修繕をされていて、ボランティアとしてはフラワーフェスティバルの貸し出し用車いすの整備指導を広島市社協のボランティアさんにしてくださり、年2~3回安芸区社協の貸し出し用車いすを修繕してくださいました。とても笑顔が素敵なお方でした。

安芸区社協職員一同、ご冥福をお祈りするとともに、心より感謝の意を申し上げます。



<車いす修繕ボランティアについて>

安芸区社協では、介護保険を申請し車いすを購入するまでの間や、ケガをして車いすが一時的に必要な場合等に車いすの貸し出しをおこなっています。

貸し出し期間は、原則2ヵ月で更新(2か月)をすれば最長半年の使用が可能です。

その車いすを修繕して下さるボランティアを募集しています。

修繕内容:虫ゴムの交換やブレーキチェック、フットレスの調整等です。

活動頻度:年2~3回程度

手先の器用な方で、空いた時間にボランティアをしていただくと嬉しいです。

安芸区社協までご連絡をお待ちしています。 ☎082-821-2501



令和元年台風19号に伴い、広島県社協主催で「広島ボランティアバスプロジェクト」が立ち上がり、被災地ボランティア応援バスにて、安芸区災害ボランティアセンターで活動されたボランティアさんが長野に行かれました。

ボランティア:守田 誠一さん、小笠原 敏教さん、野田 淳司さん

活動場所:長野県長野市北部 長野市北部災害ボランティアセンター

活動期間:令和元年12月6日(金)～9日(月) 3泊4日



Q.ボラバスに参加しようと思ったきっかけを教えてください。

守田さん:災害に対して自分が出来る事であれば、なんでもしようと思っている。

特に長野は登山で何度も訪れており、想いが深い所なので、二つ返事で参加した。

小笠原さん:長野は行った事がない所だった。冬のオリンピックの開催地であり、興味があった。

野田さん:昨年の西日本豪雨の際、遠方より多くのボランティアの方に助けをいただき、是非お手伝いしたいと思った。

Q.昨年は暑い中での災害ボランティア活動だったが、寒い中での災害ボランティア活動はいかがでしたか？

守田さん:寒いのは服を着れば良いし、作業すれば暑くなる。今回は泥が重く懸命に働いたので寒さを感じなかった。

小笠原さん:日本アルプスに囲まれた冬の長野は寒いと思っていたが、広島と同じような気候で、作業をするたびに1枚1枚服を脱ぎ汗だくになった。

野田さん:11月に個人的に長野で活動させて頂いた時は寒くなってきていたので、不安の中活動しましたが、今回は先月より少し寒いと感じましたが、活動中は暑いくらいでした。



Q.どのような活動をされましたか？

守田さん:初回は広い家の周りの庭に溜まった泥(粘土状 20～30cm 層)の撤去作業。ほぼ終了した。2回目は、畑の泥を10人位で撤去作業をしたが、泥が多く70%位で終了した。

小笠原さん:初回は守田さんと同じ。

2回目の農園には30～40cm 位、水分を含んだ土泥が溜まっていた。

1輪車を使用して道路脇に土泥を撤去した。

野田さん:2日共、ブラッシング(消毒作業)でした。修道大学のグループは特に素晴らしかった。若い力は素晴らしい。



Q.活動をされての感想をお聞かせください。

守田さん:家やリンゴが大きな被害を受けており、ボランティアをすることで感謝され参加して良かった。

ボランティア会場で温かい汁ものやむすびの炊き出しがあり、ホテル近くの銭湯はボランティアが無料で、温かく歓迎して下さり嬉しかった。広島からの参加者も若い人や楽しい人が多くバス内での会話が楽しかった。

小笠原さん:四方が雪景色で、白い山々に囲まれた長野市。主要道路は災害の後は見られないが、一步脇道に入れば至るところ車が通るたびに砂ぼこりがしていた。

作業現場に向かう途中、民家は1m以上水没した後が見られ、多くのりんご園の木の根元の半径1mはすでに土泥は撤去されていた。その木の傍に数千個くらいの大量の落石りんごが何か所にも山積されている所を目の当たりにして、たまらない気持ちになった。

野田さん:現在活動はボランティアの方々の安全面を考慮して金曜日から日曜日に限定されているが、現場は全然収束に向かっているとは思えない。農地(リンゴ畑等)支援も含め継続的な支援が必要だと感じた。昨年支援を受けた地区は応援すべきだと思う。



高齢者って人生の大先輩！！

やさしさ発見プログラムを実施しました



12月4日(水)みどり坂小学校5年生を対象にやさしさ発見プログラム事業【高齢者理解・地域理解編】を行いました。

講師として瀬野川東地域包括支援センターの職員の皆さんとみどり坂町内会長倉岡弘至さんにお越しいただきました(*^_^*)

はじめに高齢者について理解してもらい、体や脳の変化についてお勉強してもらった後、今のみどり坂を作ったこられた人生の先輩である「高齢者」の皆さんにお話をいただきました。

最後に今、町内会長である倉岡さんより町内会が行っていることなどをお話されると生徒の皆さんは「かっこいい」や「すごい」「駄菓子屋作ってね！」など色々な声が聞こえてきました。

時折、話し合いの時間や地域の方が作ってくれたプレゼントをかけたクイズを入れながら楽しく学ぶことのできた時間となりました。

町内会長さんからヒヤコソ

今、地域のつながりが単層的になりつつあり、同じ地域に住んでいても知らない人が増えています。授業を通して、様々な地域の人がかかわる場を作ること、同じまちに住んでいてもこれまではなかった新たなつながりを生み出していけるのではないかと感じました。

今後も学校教育内に留まらない地域社会との結びつきが、子どもたちの大きな財産になると感じています。



▲倉岡 弘至さん

▼地域包括支援センター鎌倉さん

瀬野川東地域包括支援センターさんからヒヤコソ

元気で素直な気持ちを持ったみどり坂小学校の皆さんと一緒に勉強ができて非常に楽しかったです。このような機会をいただいた教員の皆様に感謝しています。「まちづくり」は地域住民が主人公。みどり坂は、これからさらに安心して過ごせるまちになっていくようでワクワクしています。



～その後みどり坂小学校では“学び”を活かすべく「みどり坂」について調べる学習を先生と児童の皆さんで行う動きが広がっています。～

～みどり坂小学校の先生からのお便り～

現在、「総合的な学習の時間」のふるさと学習につないでいます。これまでふるさとみどり坂について、じっくり考える授業は、ありそうではありませんでした。

そこで、「みどり坂とはどんなまちか、どこに向かいどんな課題があるのか、その課題にどう向かい合っていくのか。」についてみんなで考えていく学習を今年度から新しく作りました。

単なる住人ではなく、まちづくりの担い手の一人として自分に何ができるのかを一人一人が考えていきます。事前のみどり坂について、話していただいたおかげで、みんなが興味を持って学習に入っていくことができました。

1年生からスタートするように計画したふるさと学習ですが、5年生では、現在のみどり坂の特色について考え、最後は調べた内容を地域の方へ発信します。講師の方のお話から、みどり坂にはまだ少ない高齢者について知ることができました。高齢者は社会的弱者ではなく、人生の大先輩だという視点もお話を通して学んでいました。総合的な学習の時間の授業の中でこんな一場面がありました。みどり坂のいいところを考える学習で、「お年寄りが少ないこと」と発言した子どもがいました。その発言を受けて、友達から「でも、お年寄りが多いまちの方が、伝統をたくさん教えてもらえるよ。」「子どもたちを見守って、守ってもらえる。」「だから、お年寄りが多いまちの方がいいまちなんじゃないか。」「どっちにもよさがあるんじゃないか。」という意見が出ました。講師の方からのお話がなければ、こういう議論はできなかったのではないかと思います。



2時間のお話を通して、自分たちの住むまちや高齢者のことに興味をもち、総合的な学習の時間の入り口をしっかりと固めることができました。